

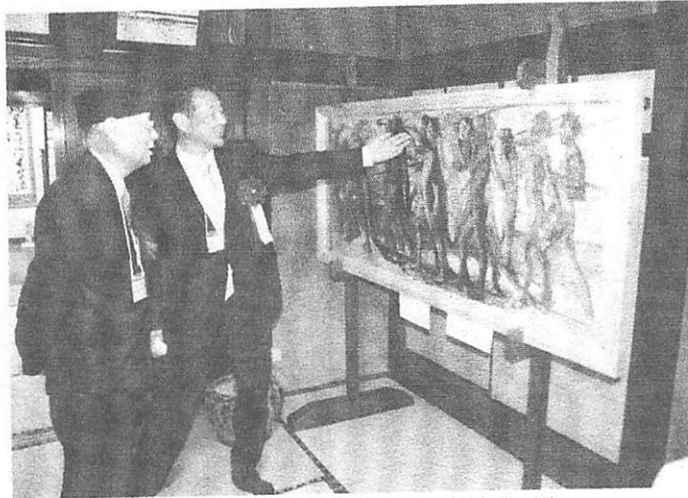
# 海の幸誕生の小谷家公開へ

館山

## 大村氏らが500人でオープン式典 テープカット



修復された小谷家を前にテープカットした関係者ら＝館山市布良



室内で海の幸の複製画を見る大村氏＝同

明治を代表する画家・繁『海の幸』記念館』の青木繁が代表作「海の幸」を制作した、館山市布良の小谷家住宅「青木」が24日、現地で開催され、保存活動の旗振り役となった。29日から一般公開される。

新南 2016.4.26.

会、地元「青木繁へ海の幸」誕生の家と記念碑を保存する会（嶋田博信会長）、現当主・小谷福哲氏、市の4者が連携して保存に動き、2年がかりの修復工事で、制作当時の姿を取り戻した。

小谷家前であった式典では、大村氏や嶋田会長、小谷氏、金丸謙一市長らがテープカット。大村氏は「待ちに待った修復オープンを迎え喜ばしいこと。大勢の関係者の皆さんと喜びを分かち合いたい」と喜んだ。

青木が描いた当時の雰囲気を残す記念館室内には、「海の幸」の実物大の複製画、青木、小谷家に関連する数々の資料も展示された。

室内を見学した大村氏は「こういうところから絵が生まれたのか。感無量。東京の真ん中では描けない。感性豊かな人が地域の風土に感化され、あのような絵が生まれたのだろう」と語った。

館長に就任した当主の小谷氏は「これだけの皆さんにお祝いしていただき感無量。オープンは通過点で、これから第2ステージが始まる。記念館を起爆剤に富崎地区に明治時代の活気を取り戻したい」。

地元保存会の嶋田会長は「この上ない感激。よここまで来ることが出来た。皆さんのおかげで感謝のひと言に尽きる。維持、管理に全力を尽くしていきたい」と語った。

富崎小学校で開催された祝賀会には、修復に関わった人や地元の関係者ら500人が参集。地元神輿、まつりばやしもあり、にぎやかにオープンを祝っていた。

一般公開は29日から5月8日までのゴールデンウィークは特別公開期間で、その後は土曜、日曜日の週2日の公開を予定。入館料は、維持協力金として1人200円（小中高100円）。